

駅で七夕飾りが涼感誘う



6月26日、JR阿波池田駅に大泉保育園の園児が風鈴を飾り付けました。毎年恒例の催しとして今回が7回目で、乗降客を楽しみにさせています。

園児と駅員ら約40人が参加して、竹が組まれたものに風鈴と、「サッカー選手になりたい」「かたつむりにあいたいな」「リレーにかちますように」など園児の願いが書かれた短冊も取り付けられました。それらは改札口近くの天井に設置され、風鈴の音色に涼しさを感じ、また、願い事が書かれた短冊を読んでみると心も癒されます。

銅山川の環境を守る一斉清掃



6月10日、伊予川芋だき会の主催による銅山川一斉清掃が行われ、約130人が政友ダムから上流の愛媛県境までの周辺のゴミを回収しました。今年は、平成15年に同会が山城町大野地区に設置した木炭を利用した浄化施設の点検と清掃作業も行われ、会員らが木炭の入れ替え作業を行いました。

伊予川芋だき会は「一斉清掃は平成12年から毎年春と秋に行い、昨年までに約1300人が活動に参加されました。参加して頂いた方々ありがとうございました。」と善意の協力で感謝をされていました。

日本の当たり前とボツワナの当たり前



6月6日、池田中学校1年生の敬愛の時間に、青年海外協力隊で活動された保坂範行さん（西祖谷在住）が、当時の体験などを語られました。保坂さんは、東京の電力会社に勤められていた頃、阪神淡路大震災でのボランティア活動をきっかけに青年海外協力隊に応募、平成10年から2年間、ボツワナ共和国で電気の技術者として活動をされたそうです。

この日は、日本とボツワナ共和国の生活や文化の違いやボランティアの意義について講演され、1年生79人が興味深く耳を傾けました。

山下菊二の源泉をたどる



江川佳秀さん（徳島県立近代美術館）による、井川町出身の画家、山下菊二（1916-86年）を紹介する講演会「山下菊二と井川の町 イメージの源泉をたどる」が井川ふるさと交流センターにおいて開催されました。

山下氏はシュルレアリスムの手法で絵を描き、国内外で開かれる戦後の日本美術を振り返る展覧会には、必ずといっていいほど作品が紹介されています。三好市での体験や伝聞が山下作品の原点であるとおっしゃっていました。

おもしろいこと、珍しいもの、どんなことでもいいので耳よりな情報をお知らせください。

三好市役所 総務課広報係
☎0883-72-7600

まちかど
フォト
ニュース



かんどり舟とふるさと一番

NHKの全国放送番組「生中継 ふるさと一番」にかんどり舟の船大工、原久夫さん（三野町太刀野）らが出演されました。かんどり舟は江戸時代から使われてきた鮎漁のための小型木造船で、原さんは先祖代々伝わる製法で60年以上かんどり舟を造り続けてきました。現在はこれを作ることができる船大工、また船釘を作る鍛冶屋がほとんどおらず、舟はあと数艇しか造れないそうです。

番組では女優の大沢逸美さんが、原さんと地元の漁師らを交え、全国に吉野川と三好市の夏の風物詩、かんどり舟や鮎を使った料理などを紹介してくれました。



ホタルも人も盛大に



6月16日に黒川谷ホタル祭りがホタルの里（山城町頼広）で開催され、たくさんの家族連れなどで賑わいました。数年前まで市内の各地で開催されていたホタルまつりも、今ではここだけの開催となっています。

しかし、写真を撮ろうと市内各地を巡ったところ、かつてホタルまつりが開催されていた井内や野呂内、他にも市内のたくさんの場所で多数のホタルが飛び交っているのを確認しました。土砂災害などで激減していたホタルが舞い戻ってきたのも、三好市の環境が素晴らしいからだと思えます。

かやぶき屋根のふき替え作業を見学



国指定重要文化財・木村家住宅（東祖谷釣井）で、かやぶき屋根のふき替え作業見学会が行われました。現在では、残っているかやぶき屋根の住宅が希少で、ふき替えも約20年に一度ということで貴重な作業見学を県内外の約60の方が楽しみました。

また、ふき替え作業ができる方も少なくなり、作業をしていたのも岡山からの業者で、独特な道具を使い、作業についても手作業で丁寧に行っていました。見学者は興味深く、職人の方へたくさん質問をしていました。